

ける地域メッシュ別の自然社会別人口変化の推定とその空間分析に関する報告を行った。

(小池司朗 記)

## 2014年人文地理学会大会

2014年人文地理学会大会が、2014年11月8日～10日(10日は巡検のみ)、広島大学東広島キャンパス(広島県東広島市)において開催された。今回の大会は、地理科学学会の2014年度秋季学術大会との共催であった。そのため、従来から実施されている特別研究発表(4件)と一般研究発表(口頭(52件)・ポスター(7件))の他にシンポジウム「日本企業のグローバル化と若者の海外就職」が行われた。また、緊急企画として2014年8月に広島市北部で発生した土砂災害に関連したポスター発表があった。

上記シンポジウムをはじめとして人口関連分野についての多数の報告以外にも、地域人口を考える上で重要となる市町村合併や産業、社会保障、防災といった問題を地理学的な立場から検討した多くの報告があった。以下、人口関連の主な発表タイトルを記す。

「東京大都市圏における都市空間変化のホット／コールドスポットの抽出と地図化」

……………若林芳樹(首都大学東京)・小泉 諒(首都大学東京)

「非大都市圏の相対的に高い出生力の要因と問題—柏崎市を例として—」…高橋眞一(新潟産業大学)

「2010年の国勢調査における「不詳」の発生状況—5年前の居住地を中心に—」

……………小池司朗・山内昌和(国立社会保障・人口問題研究所)

「「上海ドリーム」とその現実」……………阿部康久(九州大学)

「日本のビジネス・エコシステムのグローバル化と若者の海外就職・起業」……………中澤高志(明治大)

「アジア大都市における日本企業の集積とサービスの担い手」……………楯塚賢太郎(龍谷大)

「日本人若者が働くバンコクは「天使の都」か」……………丹羽孝仁(神戸大・研)・中川聡史(神戸大)

「海外求人情報からみたグローバル人材の特徴」……………由井義通(広島大)

「海外就職にみられるジェンダー差と地域差」……………神谷浩夫(金沢大)

(山内昌和 記)

## 特別講演会

### ロバート・マッケイ教授「IPUMS-International: 100カ国の センサス・マイクロデータ統合の挑戦と好機」

2014年11月10日(月)午後3時よりロバート・マッケイ教授(ミネソタ大学人口センター、IPUMS-Iアンバサダー)による「IPUMS-International: 100カ国のセンサス・マイクロデータ統合の挑戦と好機」と題する特別講演会が開かれた。マッケイ教授はミネソタ大学の歴史学部で、主としてラテンアメリカにおける歴史人口学の研究に従事するかたわら、1990年代からは世界各国のセンサス・データを収集するIPUMSプロジェクトの研究代表者として、審査された研究者に貸し出すことの出来るセンサス・データの拡張に大きな役割を果たしてきた。

今回の講演は、100カ国以上のセンサス・データを収集・普及させる上での課題、IPUMSのデータを使用する際のコツ、といったIPUMS-Internationalの活動の紹介が主なテーマであった。1999